



う げつ もの がたり
雨月物語 うえ だ あき なり ちよ
上田秋成著

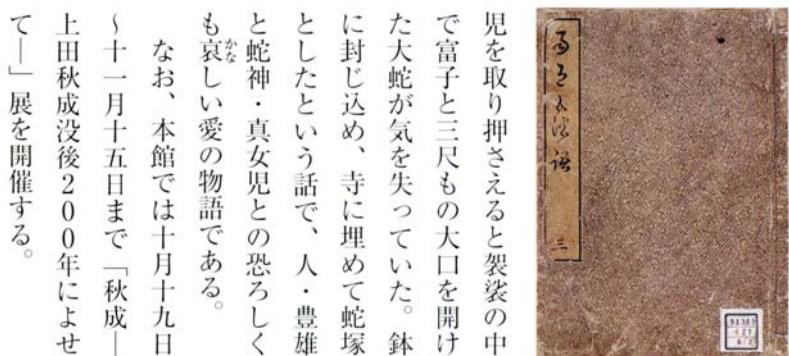
5卷5冊 安永5年（1776）刊

縦22.5cm 横16cm

上田秋成は享保十九年（一七三四）に大阪で生まれ、青年期を放蕩無頼の生活を送りながらも俳諧を学び、国史を説き、歌を詠み、国学を学んだ。一時は医者をするが、五十四歳の時、病のため大阪の淡路庄村に隠居。以後定業につかず、文筆に従い学問に遊ぶ文人として生きた。

『雨月物語』は安永五年（一七七六）刊。口語で書かれた中国の白話小説を我が国の古典や故事と融合させた怪異小説集だが、執念の悲しさや恐ろしさが描き出されていて、怪異を超えた人間の生の諸相を描いている。

掲出図は全五巻九篇のうち、「蛇性の姪」の挿絵。ある日豊雄という男が真女兒という美女と出会い、すっかり心を奪われ結婚する。旅の途中神社の人に真女兒の正体は恐ろしは逃げ出す。しばらくして豊雄は富子と結婚するが、富子は真女兒にとりつかれてしまふ。つれない豊雄を真女兒は富子の姿でなじる。豊雄は僧侶に祈禱を頼むが、僧侶は真女兒に破れ死んでしまう。豊雄は真女兒に、自分を好きにしても哀しい愛の物語である。



天理図書館のお知らせ Tel:0743-63-9200 http://www.tcl.gr.jp/
平日(午前9時~午後5時半) 土・日・祝(午前9時~午後4時半)
ただし10月18、26、30日は休み 上記「秋成」展の10月25日(日)15時から
筑前琵琶演奏会「秋成世界を語る」を開催

(天理図書館 西林 淳)